

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも 百姓宣言

「議論の年末を迎える」

【台風災害支援の拡充を要請】

今年には自然災害が大変多い一年で、私たちが農業者はその対策に頭を悩ませ過ぎました。事前の備えにも関わらず被災してしまったという農家も非常に多いという現実を直視すると、やはり政策的な支援は必要不可欠だという思いを強くします。実際に被災地を歩き、農業者やJA関係者の声を聞き、関係する会議で力を込めて発言しました。私だけでなく各地元の先生方も応援団になってくださいました。特に、台風被害については、政府に激甚指定を求めると地域全体の被害総額の議論になります。私たちからすれば、目の前に被災した農家がいる、その農家の個別の被害が具体的にわかっているのになぜ支援できないのか。万が一、その農家が被災により営農継続を断念するような結果になれば地域の維持に関わる問題になるのです。農家の声を聞き、答えていくという繰り返しですが基本的なことです。

【農業を取り巻く課題は盛りだくさん】

今回の臨時国会から、参議院国会対策委員会の副委員長、参議院農林水産委員会の理事を拝命しました。国対では、本会議や委員会との運営に関わる様々

なことを与野党間で調整する役割を担います。国会会期中はもちろんのこと、閉会中も継続的に会合が開かれており、なかなか県外にお邪魔できないというもどかしさを感じることもありますが、調整役としてしっかり職責を全うしたいと思えます。日々勉強です。

今年も議論の年末を迎えました。予算や税制の議論、国際貿易交渉や農地政策の問題。農業経営を取り巻く課題も議論されます。来年は、参議院選挙が控えています。JAグループ一丸となり、私たちの意思を結集していきたいでしょう。私も全力で頑張ります。



▼国会召集日の様子

全国・県農政連推薦

参議院議員山田としおの

農政問題に斬り込む

青柳正規前文化庁長官を講師に、地域の農林水産業振興促進議員連盟を開催

10月30日に開催した当議連の第5回総会で、前文化庁長官で東京大学名誉教授の青柳正規氏をお招きし、「国・地域・ひとづくりと農業・文化の側面から」と題して講演いただいたので、その内容をご紹介します。

【農業を単純に経済論理だけで考えることはできない】

米国や豪州のような世界的に見ても特殊な農業だけを参考にし、それを経済合理性だけで見て日本に取り入れても失敗するのは明らか。米国の農業は少品種で大規模農業であり、日本は元々多品種小規模農業であり全く違う。

イタリヤでも、大規模化を進めた農園が、米国やEU域内での競争により衰退して、合理化をしても結局は経済の舞台では生き残れなかった。

【持続可能な社会の実現に向けて、中小規模の農家を育てることが重要】

一方で、ナポリ等では自然に恵まれ、環境に適したオリブ生産をやっている。0.5畝程度の零細農家であっても活き活きと暮らしている。歴史的な脈絡の上に合ったことをやっているかないと、結局は大変な失敗を繰り返す。世界的に食料が逼迫する事態に対処す

るためには、中小規模の農家をどのように育ておくかが重要である。

日本の中小規模の農業が地域の文化を支えてきたが、農業がおかしくなり、文化自体も変わらざるを得なくなった。持続可能な社会を目指す上で、日本の農業がいかに環境や地域の文化に大きな影響を与えているかということが、農業政策の中核にあるべき。

【農協は政策集団に変わるべき】

農協が、地域のきめ細かなものを言めて全体を統括して、もっと大きな政策提言を行う政策集団に改めてなるべき。色んな形で経済の観点からだけでなく、農協が叩かれ、農協がもっていた政策提言の力が弱まっており、そこを今後どうするか考えるべき。

先生の提言をわが国の農業政策に反映させるべく、全力で取り組みます。



▲事務局長として司会進行を務める